

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市あじさい大学運営委員会 あじさい大学見直し検討部会(令和元年度第2回)			
事務局 (担当課)		健康福祉局保険高齢部 地域包括ケア推進課 電話 042-769-9231(直通)			
開催日時		令和元年10月24日(木) 10:00~正午			
開催場所		相模原市役所 会議室棟1階 第1会議室			
出席者	委員	6名(別紙のとおり)			
	その他	3名(生涯学習センター職員1名、相模原市シルバー人材センター職員2名)			
	事務局	4名(地域包括ケア推進課長、他3名)			
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数	なし
公開不可・一部不可の場合は、その理由					
会議次第	1 あいさつ 2 議題 (1) あじさい大学見直しにかかる検討 (2) その他				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は部会長の発言、 は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開会

2 あいさつ

小林部会長あいさつ

3 議題

次第に沿って、小林部会長の進行により議事が進められた。

(1) あじさい大学見直しにかかる検討

事務局から、配付資料 3-1 から部会資料 3-4 について一括して説明を行った。

部会資料 3-1 の「イ 通年・短期・公開という体系は妥当か」及び「オ 学部・学科数、学科の選定は妥当か」について

事務局から補足説明を行い、検討した。

【主な質疑、検討】

公開講座の目的はあじさい大学の普及啓発だと思う。あえて難しいテーマを選ぶより、高齢者の求めている内容を実施した方がいい。年間 3 回の開催については、年 1 回とし、3 区を順番に行ってもいいのではないか。

短期講座には、それなりに満足している方もいる。同じような学科があるので、通年講座と短期講座の一本化が可能ではないか。例えば、通年講座の前半を短期講座として基礎的な内容とし、後半については通年講座の受講生が継続して、より掘り下げた内容を学ぶようにすれば、短期講座の発展的解消につながると思う。

通年講座については、学科の精査が必要だと思うが、会場の確保の難しさと講師の配置も重要な要素となると思う。

通年講座の前半を短期とし、もっとやるのだったら通年講座に切り替えるというのは良いアイデアだと思う。

現在、通年講座受講生は短期講座の申込みができないが、通年講座と短期講座の募集時期を一本化することにより、自分のやりたいものを選びやすくなる。

一本化し、自分がその時にどちらを受けるかを選択するのであれば、受ける側にとってはいいと思う。

受ける立場とし、雰囲気やどのようなことをやるのか、見学する機会が欲しい。

通年講座の見学・体験はないのか。

現在、見学や体験できる学科はない。

公開や体験で、こういうことをやるのなら参加しようというのがあるのではないか。

また、講師のプロフィールを出したらいいと思う。

短期講座を通年講座に吸収することについて、反対者はいない。また、見学・体験をぜひやるべきであるという意見だが、事務的に問題はあのか。

全部とは言えないが、見学・体験は可能だと考えている。それにあたっては、授業に支障がないよう、プログラムや材料、会場など調整が必要となる。

募集時期についての対応は可能か。

短期講座と通年講座の募集時期を合わせることは可能だと思う。ただ、令和2年度からの実施は、まだ相談させていただけなければならない。

募集の一本化は、広報紙やパンフレットなどで一体的に周知することができ、受講生の選択肢も広がり、中長期的に周知効果が見込まれると思う。

高齢者の勉強の仕方や高齢者への教え方があるのではないか。若い時と同じような教え方でいいのか疑問がある。

短期講座として最初に基礎をやるというのは良い案だと思う。

通年講座の学科の精査の問題についてはいかがか。

学科数を25くらいに戻してもいいと思う。応募状況を見ると、例えばパソコンなどを手厚くし、陰りが出ているものや他でもやっているようなものは絞ってほしい。

会場がなかなか取れないということだが、高齢になり運転免許証を返納する人もいるため、交通のことも考えなければならない。

人数が少なければ、例えば空き店舗を借りてやるということもある。大学を会場にすると、大学つながりで受講生の気も少し引き締まるのではとも思う。

市民大学との住み分けだが、あじさい大学は初級入門編。生きがいを見つけられるようなものであればいい、仲間と話ができればいい。あじさい大学は、心のつながりまでが終着になるよう意識していないといけな気がする。

カルチャーセンターに行けばもっと高度なことができる。市民大学では、教授たちから生の話が聞ける。あじさい大学は基礎のレベルを体験する、そこがあじさい大学のいいところだと思う。そのいいところをうまく出すような通年講座の学科を選考してほしいと思う。

会場の問題では、交通機関の関係から、受講生を集めるということから、場合によっては届ける大学ということも考えなければいけないとも思う。

市民大学とあじさい大学の通年講座とは、文学以外はあまり結びつかない。だからレベルを上げようとしたら市民大学があるというのは違うと思う。

学科の見直しは必要だが、あじさい大学が今までやってきたことはすごくいい。

精査の観点については、みなさんの意見を伺いながらと考えている。例えば文学を減らせるのかどうなのか。

精査は賛成である。

学科を精査する基準について、例えば応募倍率が低調だというだけで判断することも難しい場合もある。意見を頂けるとありがたい。

講師の教え方のことだが、60年以上生きていらっしゃる方に対して、20歳くらいの学生に教える態度で接することはいかがかと思う。

1年を通しての受講は高齢者にとっても大変である。短期講座の方が時間を取れるので、短期講座の講座数を多くすることが、あじさい大学の目的に沿うのではないか。

大学は仲間づくりだから、もっと増やせという意見。いろいろな意見があっている。

精査という方向はいいと思うが、方法論がない。ある企業では、デザインシンキング

の考え方で、現場に行けというのが鉄則。机上だけでは無理な部分に入ってきているかなとも思う。

学科の精査については、募集時期や募集方法の問題などとも関連する難しい課題であると認識している。

募集方法では、現在、第1希望から第3希望までを取り、再受講は不可としているが、試案では、希望はひとつのみとするとともに再受講を可とすることを考えている。この見直しにより、学科の応募状況の変化を見極めたいとも思っている。

短期講座を通年講座に吸収することにより、同時期募集でのメリットが上回ると思うし、公開講座は、あじさい大学をPRする場に特化できればと思う。

講師との関係もある。みなさんの議論を踏まえ、また、見直しの結果も見ながら、段階的に実施できればと考えている。

実際に受講生が減っている。現在、ひとつしか受講できないが、それを複数可能にすれば受けやすくなる。

複数の学科に入れるようには考えていない。

二つ三つ受けたいという方はいると思う。そうすれば、定員割れが少なくなるということはあるだろう。

第1希望を大事にすることで、応募状況が変わると思う。最終的に空きがあれば、複数学科受講可能とすることもあり得るかもしれない。また、学び直したいという意見も来ており、ニーズはある。

前回の部会資料1-5では、あじさい大学の周知度は、高齢者でも50%に届いていない。まず、あじさい大学を知ってもらうこと。例えば、市民文化祭や市民桜まつりなどのように、掲示板に貼り出すとみんなが見る。試しにやったらどうか。

公民館の事業アンケートで、何で知ったかを聞くと、「人から聞いた」「誘われた」が多い。「あじさい大学ってこんなことやっているのだ」という、人の口から伝わるのが大事だと思う。きれいな物を作っても読んでもらわなければ話にならない。OBの活用方法を工夫したらいい。

高齢者学級が公民館で実施されている。何かを得ようとして来ている人達なので、そこで色刷りのリーフレットを配ることで効果があるのではないかな。

ぜひ検討したい。

あじさい大学のチラシがあれば、民生委員が、元気な高齢者に情報提供することができるので、周知方法として活用できるのではないかな。

要は、大学にいかにか市民が参加してくれるか、人集めである。全部につきまとう問題である。論議にあたり、精査の根拠が難しい。

参加者アンケートは取っているが、あじさい大学を知らない人や無関心な人のニーズがわからない。見直しに反映させるべきだが、その手段や方法がなくて困っている。某カルチャーセンターでは、アンケートを取らず、調査チームが現場で生の声を拾って来て、それをベースにしていると聞いている。

部会資料3-1の「カ 学科のレベルは妥当か」、「エ 夜間・土日開催は必要か」及び「ウ 開設時期・期間・回数は妥当か」について

事務局から補足説明を行い、検討した。

【主な質疑、検討】

土日開催について、運営委員からの意見で、受講者からの意見ではないということか。そのとおりである。

受講者の9割程度が学習内容に満足しているが、1割の方は何か不満がある。全員が納得していないといことは、何かそこに不安がある。

仲間づくりは、1年間ではできないと思う。希望で、もう1年できるようにして欲しい。

不満の内容については、はっきりしていないが、カリキュラム自体や用具の関係などに関わるものだと思う。

現在、基本的には同じ学科の再受講はできないとしているが、今回の試案は、初心者レベルで同じことをもう一回やるということでもいいというのであれば、受けていただけるとするものである。1年間という期間にかかわるが、仲間づくりを2～3年かけてやりたいというのは、引き続きの課題としたい。

期間のところで、基本、年単位という考え方でいいか。

そのとおりである。

試案について、意見はいかがか。

初心者レベルの継続は、良いと思う。

レベルは初心者対象が良い。更に学びたい、行政を学びたいという発展的な方は市民大学で、専門性のあるものは民間のカルチャーセンターに。あじさい大学は、まずは基礎・体験、学びの楽しさの味わい、そして仲間づくりが良い。試案は良いと思う。

試案（初心者対象を継続。レベルアップは市民大学等と連携）については、市民層の拡大を図っていく、それから初心者対象というレベルは継続で良いということである。その他はいかがか。

土日開催の試行は良い。成果が出るようであれば、土日開催を主とすれば良い。夜間はやる必要はないと思う。

開催時期も、予算の関係など行政側として準備が非常に難しいだろうが、4月からやればなと思う。

期間も、区切りとしては予算の関係もあり、年度だと思う。

回数については、24回でもいい。通年講座と短期講座の中身をどう分けるか、回数の精査の必要はあると思う。

いずれも賛成意見である。

事務局で出た話だが、平日は出られるけれども、土日は、家族や孫との時間を持つから出られないという高齢者の意見を聞いたということもある。

試案は良いと思う。夜はやはり危ないと思う。

4月からにしてもらえればと思う。

期間は年度であろう。

初心者対象というのは、そのとおりだと思うが、若干の意見として、ひとつくらい中級というか、違うものがあったらいいかなという気もする。パソコンはどうなのか。

現在、パソコン1科から4科まで同じで、パソコンで何ができるかという内容である。広く浅く、例えば文章ができる、絵が描ける、音楽が聴ける、写真の整理ができ

るなどである。来年度に向けては、ワードやエクセルを専門的に取り上げることも検討している状況である。

パソコンはどこでも人気がある。

土日開催についてだが、仕事をしている高齢者も多く、土日であればいいとの生の声を聴いている。開催し、どのくらい来るのかみるといい。

通年講座だが、途中で辞める人の中には、自分の思っていたのと違ったからという理由もある。1回だけでは体験にならないので、初級コースとして何か月か基礎を学び、その後、通年講座につながるということでどうか。人数は多くなるかもしれないが。

パソコン学科だが、ワードやエクセル、写真などの初歩を1年間かけて行っているが、受講生みんながわかるかということ、全部はわからないと思う。だから再受講できるということや内容も検討しているとのことなので、うれしく思った。

対象年齢を50歳以上に引き下げたいと考えていることもあり、土日、特に土曜日の試行をやりたいと思う。

(2) その他

当初、第2回部会の後に、あじさい大学運営委員会において部会の検討状況の確認を行う予定であったが、部会を引き続き開催することとした。

次回は、11月25日(月)午前10時から開催することとした。

閉会

あじさい大学見直し検討部会出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	小林 政美	社会教育委員会議 委員	部会長	出席
2	安藤 正義	老人クラブ連合会会長	副部会長	出席
3	堤 道子	民生委員児童委員協議会常任理事		出席
4	池田 直道	市文化協会 会長		出席
5	川上 宏	市体育協会 常務理事		出席
6	佐々木 務	学生代表（P C 1）		出席